

## BAB 4

### KESIMPULAN

Setelah menganalisis data-data kalimat *ukemi* dari sumber data, penulis memperoleh beberapa hasil yang sesuai dengan tujuan penulisan penulis dalam menulis skripsi ini.

Kesimpulan dari penelitian kalimat *ukemi* ini adalah sebagai berikut:

1. Penulis menemukan struktur peran yang muncul dari data yang telah diteliti yang dirangkum dalam tabel-tabel 6 dan 7. Peran pelaku dan pengalam dalam kalimat *ukemi* kadang kala melesap, sehingga maknanya bersifat tersirat. Bahkan ada kalimat-kalimat *ukemi* yang peran pelaku dan pengalamnya melesap sekaligus. Dalam analisis ini penulis menemukan pada analisis *chokusetsu ukemi* tidak ada satupun data yang peran pelaku dan pengalamnya muncul dalam satu kalimat (utuh), sehingga selalu ada yang melesap. Dalam *Kansetsu ukemi* yang berverba asal transitif (*tadoushi*) terdapat peran benefaktif. Peran ini berbeda dengan peran pengalam, jika pengalam adalah sesuatu yang mengalami tindakan maka benefaktif adalah sesuatu yang secara langsung dikenai tindakan. Peran benefaktif pada analisis data ditandai oleh partikel *wo*, dan jika peran benefaktif tidak muncul dalam kalimat *kansetsu ukemi* berverba asal *tadoushi* maka kalimat itu merupakan kalimat *chokusetsu ukemi*.
2. Dalam teori telah dikemukakan bahwa konstituen inti biasanya terletak pada fungsi-fungsi subjek dan predikat karena kedua jenis fungsi ini lebih

inti maknanya dibandingkan dengan fungsi-fungsi lain. Konstituen inti yang muncul dalam analisis kalimat-kalimat *ukemi* di atas seperti yang dikemukakan dalam teori, tapi pada beberapa bagian konstituen inti terletak pada fungsi keterangan yang bermakna lokatif seperti yang tampak pada analisis kalimat (25). Kemudian pada kalimat *kansetsu ukemi* berverba asal *tadoushi* semua peran benefaktif merupakan konstituen inti kalimat, karena semua peran ini masih mempunyai hubungan dengan subjek kalimat.

3. Kalimat *ukemi* merupakan kalimat yang dipakai untuk melihat sebuah peristiwa dari konteks penerima tindakan. Penggunaannya tidak terlepas dari tataran sintaksis yang terdapat dalam kalimat-kalimat itu. *Chokusetsu ukemi* digunakan saat verba yang digunakan dalam kalimat itu bersifat transitif. Sedangkan *kansetsu ukemi* digunakan ketika verba yang digunakan bersifat *jidoushi*, atau verba yang digunakan bersifat *tadoushi* tetapi terdapat peran benefaktif di dalam kalimatnya.

Tabel Kesimpulan

	<i>Chokusetsu Ukemi</i>	<i>Kansetsu Ukemi</i>
Fungsi-fungsi dalam Kalimat	Kadang-kadang fungsi subjek atau objek melesap dalam kalimat	
Peran-peran dalam Kalimat	Kadang-kadang terdapat makna pelaku atau pengalam yang melesap dalam kalimat dan dalam kalimat <i>Chokusetsu ukemi</i> tidak terdapat makna benefaktif.	Kadang-kadang terdapat makna pelaku atau pengalam yang melesap dalam kalimat dan dalam kalimat <i>Kansetsu ukemi</i> yang berverba asal transitif ( <i>tadoushi</i> ) terdapat makna benefaktif.
Peran Benefaktif		Penanda lain dalam kalimat <i>kansetsu ukemi</i> yang berverba asal <i>tadoushi</i> adalah peran benefaktif dalam kalimat itu. Jika dalam kalimat tidak terdapat peran benefaktif maka kalimat tersebut merupakan kalimat <i>chokusetsu ukemi</i> .

Tabel 8

日本語の受身文  
(役割の構造の考察)

ポビヌルチャハヤ

0042036

マラナタキリスト教大学  
日本語文学科  
バンドン  
2006

序論

色々な言語では視点の文として動作主と被動者がある。日本語では動作主を視点とした文を能動文と言う。そして、被動者を視点とした文を受身文と言う。この論文において受身形の言葉の構造を研究する。受身文の動詞は受身形の述語に当たる。寺村(1982)によると、受身形の活用は、次の通りである。

#### 1. 五段動詞

語幹 + ーあれる

例：死ぬ → 死なれる

#### 2. 一段動詞

語幹 + ーられる

例：育てる → 育てられる

#### 3. 変格動詞

する → される

くる → こられる

日本語の受身文は二つに分かれていて、それは直接受身と間接受身である。この二つ文は形と意味から区別される。

### 直接受身

直接受身は、動作主の動作を直接受ける被動者が主語になる受身文である。この受身文は能動文と同じ意味がある。直接受身は他動詞だけから作られる。直接受身の構造は、次の通りである。

#### 直接受身文

主語		目的語		述語 (受身形)
一郎	は	花子	に	だまされた

また直接受身の能動文の構造は、次の通りである。

能動文

主語		目的語		述語
花子	は	一郎	を	だます

### 間接受身

間接受身文と能動文の意味が違う。間接受身は、他動詞と自動詞から作られる。

自動詞と他動詞から作る間接受身の構造は、次の通りである。

間接受身 (自動詞)

主語		目的語		述語 (自動詞から受身形)
私	は	雨	に	降られた

間接受身（他動詞）

主語		目的語				述語（他動詞から受身形）
次郎	は	太郎	に	ビール	を	飲まれた

また直接受身の能動文の構造は、次の通りである。

能動文（自動詞）

主語		述語（自動詞）
雨	が	降る

能動文（他動詞）

主語		目的語		述語（他動詞）
太郎	は	ビール	を	飲んだ

文の構造では役目があって、例えば、主語や目的語や述語などがある。役目がある文は役割と品詞によって形成される。役割は、動作主、被動者、能動、受身などがある。そして、品詞は、名詞、動詞、形容詞、形容動詞などがある。

文では基底部門がある。基底部門というのは、文の中に必ずある部である。普通、文の中心は主語と述語であって、普通基底部門はこの二つである。

私は和久(1994)のまんが『機動戦士ガンダム 0079』から受身文のデータを取って、研究する。この論文の目的は、次の通りである。

1. 直接受身と間接受身の役割の構造を調べる。
2. 直接受身と間接受身の基底部門を結論づける。
3. 直接受身と間接受身の使い方の違いを調べる。

## 本論

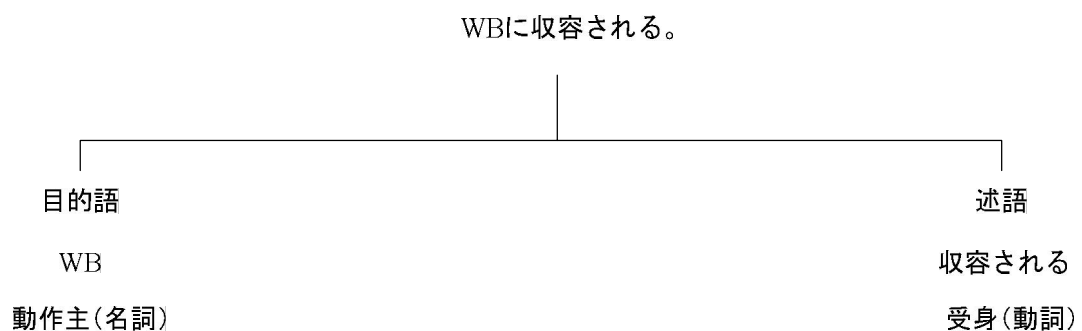
私はデータから、27 の受身文を見つけた。このデータは次の通りに分類される。

- |              |      |
|--------------|------|
| 1. 直接受身      | : 14 |
| 2. 間接受身（自動詞） | : 8  |
| 3. 間接受身（他動詞） | : 5  |

次は上の分類に基づく例である。

## 直接受身

2. (3) WB に收容される。(KG vol.1.1994:11)

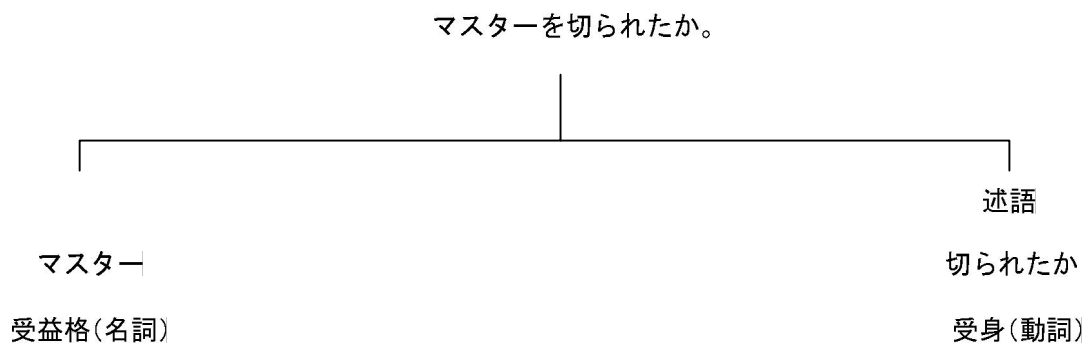


「WB に收容される」の文の中にある“WB”の言葉の役割は、動作主である。そして、「收容される」の言葉は受身である。「收容される」の言葉は、文の基底部門である。



## 間接受身（他動詞）

2. (24) マスターを切られたか。 (KG vol.2.1995:155)



「マスターを切られたか」の文の中にある「マスター」の言葉の役割は、受益格である。そして、「切られた」の言葉は受身である。「マスター」と「切られた」の言葉は、文の基底部門である。

## 結論

データを研究した結果、結論は次の通りである。

1. データの受身文の役割の構造を見つけた。下の表は受身文のデータの役割の表である。

直接受身の役割

No	文の役割				データ
	所格	進行格	動作主	受身	
1				受身	(1)
2	動作主	受身			(2), (3)

3	所格		受身		(6)
4	動作主	受身			(8)
5	動作主	進行格	受身		(12)
6	受身	被動者			(13)
7	被動者	受身			(20), (23)
8		所格	受身		(15)
9	使役	所格	受身		(16)
10	受身	被動者			(21)
11	使役	動作主	受身		(22)
12	被動者	使役	受身		(26)

間接受身の役割

No	文の役割				データ
1	所格	受身	被動者		(4)
2	進行格	受身	被動者	能動	(9)
3	被動者	所格	受身		(5)
4	進行格	受身			(10)
5	使役	所格	受身		(25)
6	被動者	受身			(11)
7	受身	被動者			(17)
8	使役	被動者	所格	受身	(19)
9	被動者	受益格	受身		(7)

10	受益格	受身			(14), (24), (27)
11	使役	受益格	受身		(18)
12					

時々、受身文の中に動作主または被動者の役割がないのに、意味がわかる。その上、動作主と被動者がいない文もある。他動詞の動詞から作られる間接受身は受益格の役割がある。受益者の役割と被動者の役割は違って、被動者というのは、誰かが動作を経験することであって、受益格の役割というのは、何かが直接に動作を受けることである。受益格の後には、「を」の助詞を必ず付ける。

2. 普通、基底部門は主語と述語である。しかし、データによると修飾語に基底部門がある。例えば、データ (10), (11), (25) である。データにある他動詞から作られる間接受身の中には、すべて受益格がある。そして受益格は基底部門である。
3. 直接受身と間接受身の使い方は、能動文の構造からわかる。直接受身は、他動詞の能動文から作られる。間接受身は、自動詞の能動文から作られ、また他動詞の能動文からも作られる。そして、その文に受益格の役割が必ずある。